

# 預金は目的別に管理



⑱ いまからはじめるマネープラン

富山県金融広報委員会  
金融広報アドバイザー

丹羽 誠

家計の管理を任されているけど、何が正解か分からない、いつもお金が足りなくなるのでは心配…。そんな方に一つの方法を提案します。企業会計において、望ましい利益から支出額を逆算する方法を家計に応用したものです。ポイントは①楽しいことから計画する②憂いをなくす③預金に色を付けるの3点です。

**Q** 「楽しいことか計画」  
とは?

**A** 大きめの本棚を買ったの間に満杯になる。余裕をもって朝起きたはずなのに、出発時間がギリギリになって慌てる。皆さん経験があると思います。

英国の歴史・政治学者パーキンソンが20世紀に、ある法則を発見しました。「支出の額は収入の額に達するまで膨張する」。つまり、あればあるだけ使ってしまうのです。時間も空間もお金の管理も同じですね。だとしたら逆を行ってみましょう。

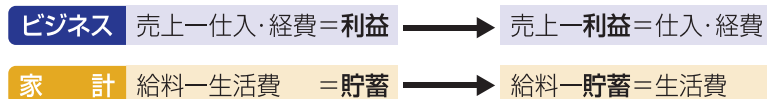
ビジネス界では「売上・仕入・経費＝利益」、家計では「給料・生活費＝貯蓄」です。これを「売上・利益＝仕入・経費」「給料・貯蓄＝生活費」とします(図1)。

旅行に行く、欲しかったバイクを買う、趣味の講座に通う。こうした計画のための預金を先に確保して別口座に入れ、残ったお金を生活費としてやりくりするので

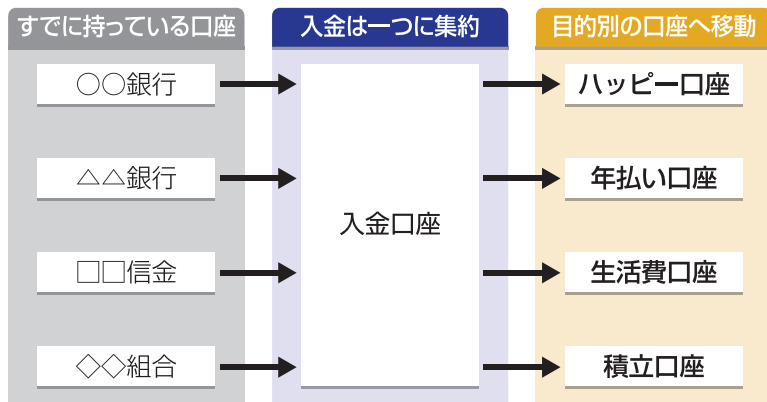
**Q** 「憂いをなくす」とは?

今月も特にぜいたくをしただけではないけれど、お金が残らず欲しかったものが買えないと落ち込むことがなくなります。

## 貯蓄を先に確保する(図1)



## 目的別に口座を分ける(図2)



**A** 年払いの支出があったのを忘れていて、貯金を取り崩してしまった…といったことがないように、年に1回程度の大きな支出を書き出してみよう。

自動車の車検費用、固定資産税、スポーツクラブの年会費、年払いのサブスクリプション、ボーナス払いのローンなどですね。これらの合計額を別口座に移して引き落としの口座に指定します。12カ月で割った金額をメインの口座から毎月移してもいいですね。これで必要な支出を忘れてしまっ、残高が急に足りなくなるといふ心配から解放されます。

**Q** 「預金に色を付ける」とは?

**A** 昔のお給料は現金入りの封筒をお父さんが持ち帰る

ものでした。その時代の家計管理といえば、学費や食事代、光熱費などそれぞれの封筒で管理しましょうと言われました。「お金に色を付ける」という感じですね。

キャッシュレス時代となり、封筒での管理は現実的ではなくなりました。代わりに預金に色を付けてみましょう。先に述べた①の口座は「ハッピー貯金」、②の口座は「年払い貯金」、そしてメインの口座は「生活費口座」とニックネームを付けておくのも手です(図2)。

家計簿は何のためにつけるのでしょうか。必要な時に必要なお金が準備できないと困るといふ恐怖心からつける方もいるでしょう。将来の目標のために貯金しておきたいという理由かもしれません。

一つの口座で管理するのは、一見便利なのですが、残高には楽しみのためのお金と「大きな引き落としのためのお金」が混じっていて、頭の中で整理できていないことが大半なのです。

そこで、預金は目的別に管理することを勧めます。自分らしく生きるための預金は〇〇銀行にある。大きな出費に備える預金は□□信金にある。あとは日常生活を一定の金額で過ごしていけばいいと思ったら、気分的にずいぶん楽になるはずです。

憂いなく明るく楽しく過ごすために、口座管理に手間かけてみましょう。(ファイナンシャルプランナー)